

「大膽に愛國主義を看板として或は「新日本主義」或は「勞資一體」と極めて描象的な言辭を以て現狀を無視し健全なる勞働組合運動を阻害せんとする者」が現はれてゐる。

かくの如く泥池たる極めて困難なる産業情勢に立も健全なる勞働組合の組織的信用の確立とその勝利を自指して進進する斷乎たる信念と充分なる用意と準備を整へる我々の使命の感々重大なるを痛感せざるを得ぬ。今日人心の顛覆と道徳の破産を叫ぶものがあるか其の因は資本主義の自己平位の功利主義の結核に外ならぬ。茲に於て我等が力を極めて奮勵するところのものは全國民が強く思を伏して齊しく報國の犠牲的精神を涵養することである。

我が九州地方協議會は幾に日本勞働組合會議が政府に建議したる「産業労働の規制」を實現さす國家の線に沿つて「臨時産業委員會の設置」に全力を致したのであるか、更に報國産業の精神の

下に産業神社創設の第一事業として産業殉職勞働者慰靈碑建立の運動を起し、勞働の國家的犠牲の尊さと勞働の人格的價格と誇りを勞働者自身にも自覺させ社會全般にもこれを強く認識せしめ以て報國産業の犠牲的精神を涵養し國家産業のために精神的救済の運動を行ふと共に又勞働階級の日常生活の利益を擁護しこれを向上と發展のため不撓の戦を續けるものである。我等の健全なる運動に對し飽くまで頑迷無理解なる資本家には強くこれが反省を促し我等の運動に理解と好意を以ち國家産業に殉せんとする事業主に對しては産業の國家的發展のため産業協力の精神を捧げること共に躊躇するものでない。我等はこの強き信念と精神を以て我が九州地方協議會の發展を期するものである。

茲に第四回年度大會に當り取えて我等の所信を宣言する

昭和十年十一月二十九日

日本勞働組合會議九州地方協議會第四回年度大會